



KUMAMOTO

# YMCA NEWS

THE KUMAMOTO  
YOUNG MEN'S  
CHRISTIAN  
ASSOCIATION

2016  
10月14日  
特別号



益城町総合体育館 居住スペース

## 183日の足あと。ともに歩んでいく道

最大震度7の地震を2回観測した熊本地震から6カ月。活動は緊急支援から、長期型支援に変わりつつあります。

発災直後から熊本YMCAが運営にあたった県内最大規模の益城町総合体育館避難所は

10月末に閉鎖(9月16日益城町発表)、多くの避難者が復興に向けた次のステージに進み始めています。

しかし、一人ひとりの歩みは、歩幅もスピードも異なります。

私たち熊本YMCAは、県内各地域において、被災者お一人おひとりを個の存在として受けとめ、

これからもみなさんとともに一歩ずつ歩んでいく支援活動を展開していきます。



撮影:安田菜津紀さん

1987年神奈川県生まれ。studio AFTERMODE所属フォトジャーナリスト。現在、カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けながら、熊本地震の取材も県内各地で行っている。

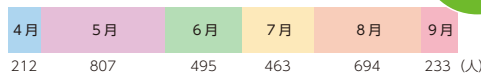
幼少時に横浜YMCAのキャンプに参加、横須賀YMCAの体操教室に通っていた。

# 熊本地震から183日、変わるニーズと支援の形

## ■阿蘇YMCA

4月26日より災害ボランティアセンターとしての役割を開始し、今も全国からボランティアを受け入れ、被災地へ派遣。農業支援、瓦礫撤去などを行っています。また、4月19日から8月7日まで地域に向けてお風呂を開放した“お風呂プロジェクト”の利用者はのべ955名に上りました。

### ボランティア派遣人数



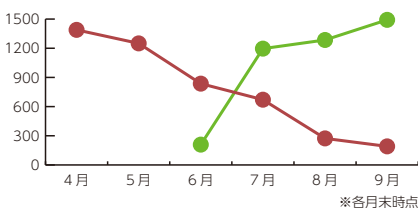
累計  
2,904人



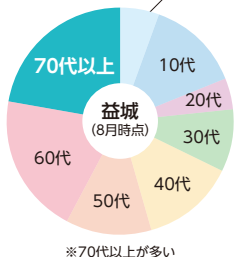
熊本地震発生以降の地震回数  
**4,081回** (10/10時点)

## ■益城町総合運動公園

●避難者登録数 ●益城町応急仮設住宅工事完了戸数



避難者年齢別構成比 10歳未満

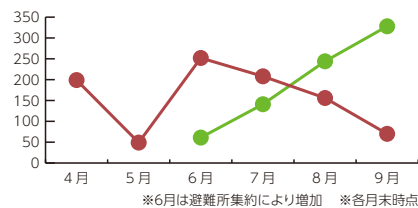


益城町総合運動公園は地震直後から多くの被災者が身を寄せる県内最大規模の指定避難所になりました。多くの支援団体に支えられて運営、10月末で役割を終えることが発表されました。

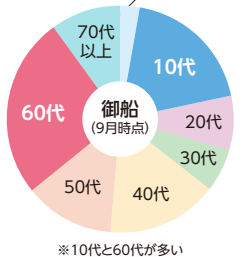
御船町スポーツセンターは、本震後、4月16日から本格的な避難所運営を開始しました。

## ■御船町スポーツセンター

●避難者登録数 ●御船町応急仮設住宅工事完了戸数



避難者年齢別構成比 10歳未満



益城町、御船町ともに、仮設住宅数の増加とともに、避難者は減少。今後は周辺の仮設住宅への支援が必要となります。YMCAは益城町木山地区の仮設団地で「地域支え合いセンター」の運営を開始。今後、御船町においても仮設住宅の支援活動を行っていきます。

## ■その他のYMCAの活動

- 中央YMCA** YMCA学院 (中央区)
  - 地域の避難所でレクリエーションや運動指導を実施
  - 物資センターとして機能
  - 専門学校生をボランティアとして多数派遣
- 東部YMCA** (中央区)
  - 地域の子どもたちに学習スペースを開放
  - 地域の避難所で炊き出し
- みなみYMCA** (南区)
  - プールの水を生活用水として提供
  - シャワー室を開放
- ながみねファミリーYMCA** (東区)
  - 一時自主避難所として施設を開放
  - プールの水を生活用水として提供
- むさしYMCA** (合志市)
  - シャワー室を開放 (のべ約2,500名が利用)
- 水前寺幼稚園** (中央区)
  - 震災後早期の園児、きょうだいの預かり
  - トラウマケアプログラムを実施
- 保育園** (阿蘇市)
  - 他県YMCA等の応援を受けながら震災後早期の園児預かり
  - 地域の子どもたちを対象に“子どもフェスタ”を実施
- リフレスおおむた** (福岡県大牟田市)
  - 一時避難所を開設
- 県外YMCA**
  - 全国のYMCAより154名がのべ879日間、来熊して活動をサポート

募金総額 **118,121,529円** (8/31現在)

震災復興支援募金へのご協力、誠にありがとうございます。引き続き、ご協力をお願いいたします。

熊本YMCA震災復興支援募金ページ▶



## 避難所運営

あきよせ 秋寄 光輝さん

熊本YMCA 災害対策本部  
YMCA益城ボランティアセンター長 (~9月)



## 子どもケア

仁木 啓介さん

精神科医・医療法人 仁木会 理事長  
ニキ ハーティーホスピタル



## 高齢者支援

眞鍋 有美子さん

社会福祉法人 賛育会 賛育会訪問看護ステーション (東京都) 所長  
訪問看護師・介護支援専門員



## YMCA独自の地域活動支援を目指して

NPOや医療団体などと協働する中で、YMCAとして大切にしたいのは、避難者が“避難者だから我慢する”ということのないよう、あらゆる方法を検討して実行するという考えでした。以前できていたことを当たり前に行えるようになることでストレスが解消され、次のステップに進むための前向きな気持ちが生まれると思うからです。

震災後は水や食料といった生命に関わる物資面の支援が中心でしたが、現在は“人間らしく生きたい”という多様化したニーズに対応する努力を続けています。

10月末の避難所閉鎖後は、地震前の体育施設としてのプログラムの再開が期待されます。また、今回の経験をもとに、仮設住宅や、その後の復興住宅での新しい人間関係づくりのための支援など、YMCA独自の活動を展開していきます。

## “怖い”びっくりりを、“楽しい”びっくりりに

本震の時に寝ていた子どもは、周囲から「びっくりした。恐かった」と聞いて、恐怖を取り込んでいるケースがあります。まずは親が安心感を得ることが大切です。子どものトラウマは放置すると思わぬ形で芽吹きます。“怖い”びっくりりを、“楽しい”びっくりりへと入れ替えることが心のケアにつながります。8月は被災児を対象としたYMCAのキャンプに協力しました。キャンプで挑戦したスポーツ・クライミングでは、子どもたちは高い壁を見てびっくりしましたが、自分の力で壁を登ると自信が生まれます。

今後、保護者や保育者が子どもをケアできるよう、学びの場を設けることも大切です。専門家が対応できる時間はわずか。身近な人が適切に対応できれば大きな効果が望めます。子どもとの関わりが親の自信や家庭の安定につながるでしょう。

## 高齢者に孤独を感じさせない声掛けを

益城町総合運動公園に避難する人の4割以上が65歳以上で看護や介護のニーズが多いということを知り、賛育会として何かお手伝いができればと、40名ほどの職員がシフトを組み熊本に派遣されました。介護班として配給場所に食事を取りに行くこと、仮設トイレでの補助など、高齢者が不自由を感じている部分のサポートや声掛けを行いました。医療系の支援が終了した今は、健康相談も受け付けています。

一人で避難している高齢者の方に孤独を感じさせないよう、本人はもちろん、周囲の人たちにも声を掛け、「皆で見守っている」という雰囲気をつくるのが大切です。今後は仮設住宅で新たなコミュニティを築けるような場を設け、細く長く高齢者の方に寄り添っていくことも、重要な支援の一つです。